

4. 基質拡張型β-ラクタマーゼ（ESBLs）分離株数

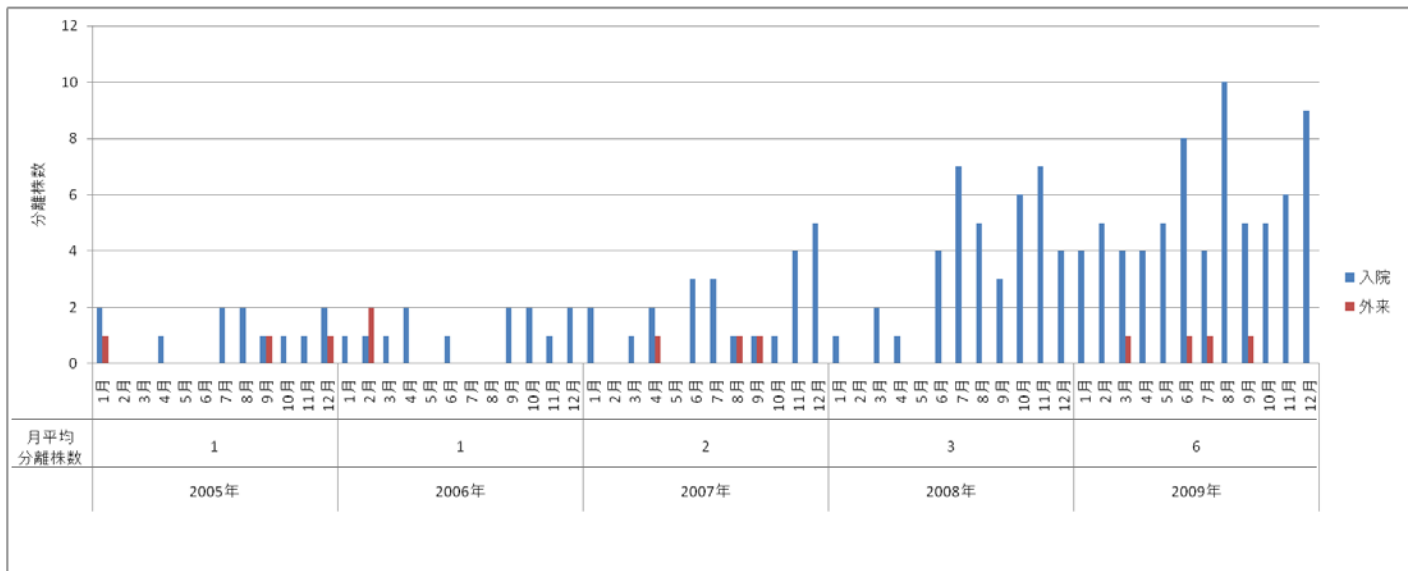


図. ESBLs 月別分離株数（2005年－2009年）

図は2005年から2009年における当検査室のESBLs月別分離株数（青：入院、赤：外来）です。

〈特徴〉

- * 2005年から2007年10月までの月別分離株数（入院+外来）は3株以下で推移しました。
- * 2007年11月から12月に分離株数の増加を認め、その後一旦減少しましたが、2008年6月以降は月に3株～10株で推移しています。
- * 2009年の月平均の分離株数は6株となり、2008年に比し2倍の分離株数となっています。
- * ESBLsの月平均分離件数は年々増加する傾向にあります。近年のESBLs分離株数増加の一因として、2007年3月に当院において広域抗菌薬の使用制限が開始され、カルバペネム系抗菌薬やオキサセフェム系抗菌薬の使用量が減少したことが考えられます。

〈注意〉

- * ESBLsが外来患者から検出され感染症と診断された場合、治療薬の選択には注意が必要です。
- * ESBLsが同一病棟から検出された場合、他の耐性菌も伝播されている可能性も高いため、手指消毒や標準予防策および接触感染予防策の徹底について警鐘を発することも大切です。